

久しぶりに通勤電車に乗る。最も混んでいる時間帯からは少し遅いが、それでも人の波をみると、なぜか怖れる。また東京中心に感染者増。香港とともに気になる。6月24日にゼミは、マルクス『資本論』第3巻第33章「信用制度下の通流手段」を大村さんの報告で行いました。エンゲルスは、この章の編集について、「混乱」からの材料を使って、マルクスの草稿ノート、第5・6部分から33章から35章までまとめた。新メガ編集者によると「信用制度下の通流手段」の表題はエンゲルスが設定したもので、委員会報告から抜粋し、それにマルクスの見解が書かれている。マルクスが一定の理論的テーマ・筋書で材料を集めたのではなく、興味・必要とした部分を逐次書き抜いたもので、「貨幣資本と現実資本」のためのノート・補遺であり、不破哲三によると、ここから信用論の理論的な枠組みをつくることは無理である、という。その内容は、今回の報告範囲(S.546 まで)に限れば、西村閑也によれば、以下のものである：貨幣の流通量と速度の関連、銀行の流通を支配する法則、銀行券の流通量と変動、循環局面と通流手段の量的な変動、である。討論では、「流通」と「通流」の訳語の違いは何か、前者は Zirkulation、後者は Umlauf, Currency に該当しているが、その違いは何か、すべて「流通」としている訳本があり、日本語としてはどうか。エンゲルスが本文と注の両方に書いているが、本来は注にすべきところを本文に書いているのではないか。特に S.543 にあるエンゲルスの挿入文は長い記述として挿入されている。国家信用としての不換紙幣が既に出てくる。貨幣需要の変動は景気に左右され、恐慌時には決済手段として支払手段が求められ、金利が高くても「ヤミ金」に走る。「流通の低さまたは充実」の訳文は適切か、「不足・十分」ではないか。出席は、小野さん、高島さん、大村さん、高田の4名でした。

* 7月8日ゼミは、「レイ・MMT理論」(レジュメはMLで配布済)と、

「コロナ禍と世界の財政赤字膨張を考えるか?」の個人報告です。

* 7月22日のゼミは、『資本論』第3巻33章の後半 S.546 からです。

* 前々回ゼミで萩原本を終わりました。7月・9月は個人報告の予定、10月からの新しいテキスト候補の推薦をお願いします。

***** ゼミ日程 *****

- 7月8日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
個人報告:「レイ・MMT理論」&「コロナ禍と財政赤字膨張」報告竹内さん
- 7月22日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻33章 信用制度下・・・(後半) 報告大村さん
- 9月9日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
個人報告:テーマ「1930年代の世界」 報告小野さん
- 9月23日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻34章 通貨主義・銀行立法 報告者未定
その後 10/14, 10/28, 11/11, 11/25, 12/9, 12/23, 1/13, 1/27 (アイクルの部屋)